

九州医師会連合会勤務医連絡協議会

常任理事 玉城 研太郎



九州医師会連合会勤務医連絡協議会に出席したので報告する。冒頭、日本医師会勤務医委員会委員長の一宮仁先生の講演があり、その後に会場を交えてのQ&Aセッションが行われ、小生も僭越ながらいくつかコメントをさせて頂いた。個人的な印象としては、沖縄県医師会の勤務医部会活動や組織力強化（Team F-Visionの活動：後述）は先進的だと考えた。まず一宮先生の講演の概要をご紹介します、また現在の沖縄県医師会の取り組みをご紹介します。

日本医師会勤務医委員会報告

日本医師会勤務医委員会委員長 一宮 仁 先生

日本医師会勤務医委員会では、勤務医の医師会参画を促進するための取り組みが議論されている。医師会は「全ての医師を代表する組織」としての役割を果たし、国民の生命と健康を守るために組織の強化を進めている。その一環として、勤務医の医師会入会を促し、継続的な活動参加を推進することが重要視されており、各

ブロック医師会連合会においては勤務医協議会等の会議体が設置され、勤務医の意見を日本医師会や行政に反映させる仕組みを整え、今後の医療政策に役立てることを目指している。

令和6年度の会長諮問では「勤務医の医師会活動へのさらなる参画」がテーマとされ、勤務医の意見を集約し、医師会活動の中で反映する仕組みの整備が求められた。近年の調査では、全国の医師会における勤務医会員比率は50%を超えているものの、医師全体の組織率は低下傾向にあり、医師会の活動に勤務医が積極的に関与することが課題となっている。そのため、都道府県レベルでの勤務医部会や委員会の設置を推進し、勤務医の声を届ける仕組みを整えることが急務とされている。

さらに、大学医師会との連携も重要な課題となっており、大学病院勤務医に対して医師会活動の情報提供を強化し、学生時代から医師会活動に触れる機会を増やすことが求められ、同時に勤務医の医師会活動が病院管理者や上司に

よって正しく評価される仕組みを整えることも重要視されている。多忙な勤務医にとって、医師会活動への参加は負担になる可能性があるため、その活動が勤務評価に適切に反映されるような制度の整備が求められている。

勤務医の医師会活動への関与を促すためには、若手医師や中堅勤務医の入会を促進する施策も重要な要素となる。大学や研修病院との連携を強化し、初期研修医のオリエンテーションや病院長との面談を通じて、医師会活動の意義を伝えることが必要である。さらに、勤務医同士の交流を深めるため、各地域で若手医師向けの交流会やシンポジウムを開催し、参加の機会を増やすことも有効な手段と考えられている。情報発信の強化も重要な課題であり、SNSやウェブサイトを活用して、医師会の活動内容やメリットを積極的に伝えていく必要がある。

勤務医のキャリア支援も、医師会の役割として重視されており、専門医資格取得のサポートや、復職支援、奨学金制度の整備など、勤務医のキャリア形成を支援する取り組みを強化し、医師会への参加のメリットを明確にすることが求められている。女性医師の参画促進も大きな課題であり、勤務環境の整備や、委員会への登用を増やすことで、より多様な医師が活躍できる医師会組織を目指す必要がある。さらに、医師会の三層構造のあり方や、会費負担の軽減についても引き続き議論している。

MAMIS（医師会会員情報システム）の導入など、IT化を進めることで手続きを簡素化し、利便性を向上させることが求められている。特に、勤務医の異動時に発生する手続きをよりスムーズにし、会員資格を維持しやすい環境を整備することが必要とされている。

勤務医の意見を日本医師会を通じて国に届けるためには、ブロックごとの協議会を活用し、双方向の意思疎通を強化することが重要である。九州ブロックの取り組みを全国へと広げることで、全国的な勤務医の意見集約システムを確立し、医療政策の改善につなげることが期待されている。

このように、日本医師会勤務医委員会では、勤務医の医師会活動への参画を促進し、その意見を政策に反映させるための様々な取り組みが進められている。医師会の組織力を強化するために、勤務医の意見を正確に収集し、各レベルの医師会で共有することが不可欠である。そして、医師会活動が単なる負担とならないように、メリットを明確にし、働き方改革やキャリア形成支援といった具体的な施策を展開することで、より多くの勤務医が積極的に関与できる環境を整えていくことが求められている。

さて、沖縄県医師会では一昨年より Team F-Vision という若手医療者チームを発足し活動をしている。若い先生方の医療に関する考えを地区医師会や県医師会、あるいは行政の医療施策に反映させるため、また医師会活動を“わたくしごと”として考えて頂くために組織化を行った。昨年は学生から70歳代医師までを巻き込んだトークイベントを2回開催し、また交流会も開催させて頂いた。今年度は今までの交流ベースの活動に加え、具体的な提言ができるような会議体も作ってみたいと考える。ひいては医師会の組織強化につながるものと確信をしている。また沖縄県医師会勤務医部会も、ハートライフ病院の西原実部会長にこれまでお力添えを頂き、またこの度、西原部会長から浦添総合病院の藏下要部会長にバトンタッチが行われ、勤務医の抱える様々な課題の抽出、そして課題解決に向けたワーキンググループの設置に向けて、現在活動が更に活発になってきた。沖縄県医師会の Team F-Vision 並びに勤務医部会の先進的な取り組みが、日本の医療界のモデルとなるよう、関係各所と更に力を入れていきたい。

※報告書の詳細につきましてはホームページをご参照下さい。

<https://www.okinawa.med.or.jp/medical/kaihou/houkoku/202303-2/>

